

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：国際教育・協力センター	担当部局：国際教育・協力センター
大項目	7 国際交流（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。	
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性	
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性	
	(KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）	
小項目	7.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際理解のための教育	
	(KG2) 国際協力の実践	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 海外からの推薦入試など入試制度を改革し、学部、大学院において2013年度末に定員の3%（713人）の外国人留学生を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。そのために、宿舍提供システム整備、ワンストップサービスの提供と奨学金制度を整備する。	→外国人留学生数、宿舍提供数、外国人留学生へのサービス部門の整備および奨学金制度改革の有無。	A→Bに変更
2. 英語による授業のみで修了できるコースを提供する大学院1コース以上設置し、世界に開かれた大学を実現する。	→英語による授業のみで修了できるコースを提供する大学院数	A→Cに変更
3. ダブルディグリー制度を、2013年度末までに5大学院で実現する。	→ダブルディグリー制度を有する、大学院数。	B→Cに変更
4. 客員教授制度を改革し、2012年度から新制度による外国人教員の受入を2009年度比50%増とし、2件以上の共同研究を行う。	→客員教授制度を改革の有無、客員教授受入数および共同研究数。	A→Dに変更
5. 海外留学制度の充実を図り、毎年1名以上の優秀な学生を協定大学等に派遣し、学位を獲得させる。	→派遣学数および学位取得学生数。	C→Dに変更

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	(現状説明) 英語による授業のみで卒業できるコースを2012年度から理工学研究科前期課程に設置するため、検討・準備を進めている。
★ 小項目 7.0.2	(現状説明) 大学院外国人留学生数は、2010.5/1現在117人（前期課程91人、後期26人）と前年から23人増加した。学部学生含めると2010年度500人となった。協定大学からの推薦入学を2011年度から実施する。これらの学生を対象とした奨学金制度を今年度に提案する。 ダブルディグリー制度は、受入型で理工学研究科前期課程のみだが、現在同じく受入型で言語コミュニケーション研究科において、検討している。
★ 小項目 7.0.3	(現状説明) 国際協力の実践では国連学生ボランティアへ参加を可能としているが、応募する学生が非常に少ない。交換留学派遣も同様で、応募する学生が少ない。
★ その他	客員教授制度の改革は、共同研究が実施できる制度を2010年秋に提案する。

## 《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【全研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	2010	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	1	1	2	2	2	2		
指標2	国際交流協定締結国数		国	1	1	2	2	2	2		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	7	9	5	9	15			
		外国人留学生	正規	人	33	48	58	67	73	84	
			交換	人	5	7	8	4	7		
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	4.1	5.7	7.1	8.5	9.2	10.5	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.6	0.8	1.0	0.5	0.9		外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	0	0	0	0	0					
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—			
		人 数	長期	人	0	2	1	0	1		
			短期	人	0	1	0	0	0		
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.1	0.0	0.0	0.0				
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	1	2	0			
		短期	人	0	1	2	2	1			
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	1	0			
		短期	人	33	32	29	34	0			
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	1	0	0	0			

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

【全専門職大学院】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	2010	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	0	7	11	12	11	11		
指標2	国際交流協定締結国数		国	0	5	5	6	6	6		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—			
		外国人留学生	正規	人	1	6	7	11	21	33	
			交換	人	0	0	0	0	0		
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.2	0.9	1.0	1.6	3.2	5.1	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—					
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—			
		人 数	長期	人	0	1	0	2	0		
			短期	人	0	1	0	0	0		
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.2	0.0	0.0	0.0				
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	0	2	0			
		短期	人	0	1	1	1	2			
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	1	1			
		短期	人	33	32	29	32	25			
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0			

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

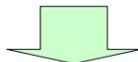
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	ホームページの英語版を刷新したことと相乗して、海外からE-mailによる大学院に関する問合せが増加している。その中から入学者も増えている。(経営戦略研究科国際マネジメントコースなど)
★ 小項目 7.0.2	外国人留学生への宿舎提供などのサービス(渡日前含む)を開始した。
小項目 7.0.3	
その他	今夏、海外拠点を開設した中国・長春市、カナダ・トロント市で、シンポジウム(フォーラム)を実施する。



## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	協定校からの大学院への推薦入学での優秀な学生の獲得を推進する。
★ 小項目 7.0.2	外国人留学生奨学金制度を改革する。
小項目 7.0.3	
その他	客員教授制度の改革を実現し、共同研究を目的とする招聘を実現する。

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	
★ 小項目 7.0.3	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	
★ 小項目 7.0.3	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	多様な実施計画を遂行することに集中する。
-----------------	----------------------

### Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

#### 【学外委員】

○大学院らしい具体的な目標設定は大変評価できます。さらに、英語のみによる授業の導入やダブルデグリー制度など更に検討準備を進められることが望まれます。

#### 【学内委員】

○研究科の留学生増の背景には協定大学の増加があるのではないのでしょうか。そうでしたら記載されることを勧めます。進捗評価は、評価基準に照らし合わせ、再評価をお願いします。

○目標の進捗評価については、2013年度の達成点から見て現在どのくらいまで進んでいるかという評価です。Q&A (パブリックフォルダ掲出) を参照ください。

○本進捗状況報告シートの記入の仕方については「実施要領」に記載しているところですが、まず、小項目で問われていることについて、Ⅱ 《小項目ごとの現状説明》で説明をしてください。その際、掲げられた目標の説明も加えてください。従って、現状説明は、すべて小項目7.0.2の記載となります。整理をお願いします。

○小項目7.0.1の現状説明は、国際交流についての方針を(方針)と明示し内容を記載してください。

○新基本構想、新中期計画における施策である「国際化」は重要なものであり、関西学院の源とも言えるものです。その実現が期待されます。

○ここ数年の間に留学生の受け入れは著増し、留学生の比率は高まっています。それに対して、学生の海外への派遣はほとんど実績がありません。このまま放置できない状況にあるといわなければならないでしょう。また、受け入れた留学生の品質管理を行うことが必要でしょう。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目7.0.1 (現状説明) 「世界に開かれた、世界との共生をめざす関西学院大学を目指し、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。」ことを方針とする。そのため、2013年度末までに、以下の目標を達成する。

1. 正規外国人留学生を学部、大学院を合わせて定員の3%(713人)受入れる。
2. 英語による授業のみで修了できるコースを設置する。
3. ダブルディグリー制度を拡充する。
4. 客員教授制度を改革し、新制度による外国人教員の受入を増加させる。
5. 海外留学制度の充実を図り、本学大学院生を毎年派遣し、学位を獲得させる。

★ 小項目7.0.2 (現状説明) 英語による授業のみで卒業できるコースを2012年度から理工学研究科前期課程に設置するため、検討・準備を進めている。大学院外国人留学生数は、2010.5/1現在117人(前期課程58人、後期課程26人、専門職課程33人)と前年から23人増加した。学部学生含めると2010年度494人となった。協定大学からの推薦入学を2011年度から実施する。これらの学生を対象とした奨学金制度を2010年度に提案する。  
ダブルディグリー制度は、受入型で理工学研究科前期課程のみだが、現在同じく受入型で言語コミュニケーション文化研究科において、検討している。

#### ◎ 改善すべき事項

小項目7.0.2 (現状説明) 交換留学派遣に応募する学生が少ない。

その他 客員教授制度の改革は、2010年度秋に提案予定で進めている。

### Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数
7.0.0.S4	国別留学生数(学部別)の経年変化
7.0.0.S5	学生交流の状況
7.0.0.S6	国連ボランティア(UNITeS)参加者数

<個別的な指標>
